

平成 30 年 6 月 26 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02711

研究課題名(和文) 語彙の内的特性に基づいた日本語話者のための韓国語教育用語彙目録の開発に対する研究

研究課題名(英文) A Study on the development of detailed-lexical-information based lexicon for Korean language education in Japan

研究代表者

南 潤珍 (Nam, Yunjin)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・准教授

研究者番号：30316830

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本語母語話者のための韓国語教育用語彙目録を開発するための理論的、実践的基礎を提供せんとするものである。これまでの日本と韓国における韓国語教育用語彙目録の問題点を認識した上で、「日本語母語話者のため」と「教育」というキーワードを手掛かりに語彙選定方法、語彙の学習レベル分け、語彙内の特性の提示方法について検討を行った。その結果を反映させた動的な語彙目録および検索システムを作製・公開し、更なる改善及び方法論の発展を図るとともに日本と韓国、台湾の学会で発表を行った。

研究成果の概要(英文)：This research is to provide a theoretical and practical basis for developing a lexicon for Korean language education of Japanese speakers. Some problems of lexicons of Korean language education in Japan and Korea so far are examined. And based on the keywords "for Japanese speakers" and "education", the way of vocabulary selection and of vocabulary grading, and the methodology of lexical information description were examined. Both a bidirectional (Korean-Japanese/ Japanese-Korean) lexicon with detailed lexical information either a retrieval system is made and released. I made some presentations at academic conferences held in Japan, Korea, Taiwan and the papers were published.

研究分野：韓国語教育

キーワード：語彙目録 韓国語教育 語彙情報 語彙検索システム

1. 研究開始当初の背景

現在、日本国内の韓国語学習用の語彙目録は数や種類も豊富でありその歴史も長い。ところが、検定試験用の汎用的な目録から分野別、主題別のものに至るまで、その語彙選定の基準が明示されているものは見当たらない。教育用語彙選定の方法としては、単語の使用頻度に基づいた客観的方法、教師や語彙論研究者の経験・方針に基づいた主観的方法、両者の短所を補った折衷的方法があるが(『国際通用韓国語教育標準模型開発 2 段階』報告書, 韓国国立国語院, 2011, pp23-24), 日本の韓国語教育用語彙目録は殆どが主観的方法論によるものである。コーパス分析に基づく客観的方法論が実用化された最近では、仮に経験豊かな教師や理論に徹した研究者の判断だとしても、それだけに基づく語彙選定は客観性と妥当性に欠く方法として避けられているのが事実である。ここで、客観的な方法、即ちコーパスの使用頻度に基づいた語彙選定の必要性が浮き彫りになる。

一方、韓国では 2000 年代以来、韓国語のコーパス言語学的研究の成果を韓国語教育に取り入れる様々な試みがなされてきた。その中、語彙の教育・学習に関して特に注目されるのが、韓国語教育の世界標準を提案する試み(『国際通用韓国語教育標準模型』, 以下「国際通用」と呼ぶ)の中で提案された教育用語彙目録である。

「国際通用」の語彙目録は韓国語の使用頻度に基づきながら、韓国語学習辞書、韓国語能力試験、韓国語教材の語彙リストを参照して選定語彙と語彙のレベルを調整し、さらに韓国語教育の専門家による評定を受けたものである。所謂折衷的方法を取り入れたため信頼性と妥当性を追求したリストとして支持されている。

ところが、この「国際通用」の語彙目録は、学習者の母語は考慮せず、韓国語の使

用頻度と韓国国内での韓国語教育の状況だけを反映したものであるため、日本語を母語とする韓国語学習者のための教育用語彙目録としては十分とは言えない。外国語学習は理解能力の習得と表現能力の習得の両方を目標とする。このような観点から見て「国際通用」の語彙目録は韓国語理解には有用であるが、日本語話者の韓国語表現には不十分であると言えよう。成人学習者において韓国語表現に必要な語彙は日本語表現を前提してから見えてくるものが多いからである。韓国語の使用頻度に加え、日本語の使用頻度をも反映した、韓国語教育用語彙の選定が必要となる。

既存の韓国語教育用の語彙目録は初級から上級までレベル分けされている。ところが、そのレベル分けの基準が明確でないものが殆どであり、レベル分けの基準が提示されている場合でも使用頻度だけに基づいたものが殆どである。

語彙目録を語彙能力の測定や語彙教育の設計に活用するためには語彙の質、即ち単語の発音から語用論的特性にいたるまで語彙のすべての内的特性を反映したレベル分けが必要である。

2. 研究の目的

(1)日本語母語話者の韓国語学習に役に立つ韓国語語彙選定の方法論を提案する。

上述した研究の背景に対し、日本語話者に適した韓国語教育用語彙の選定を行う。韓国語理解と韓国語表現の両方に役に立つ語彙目録に作り上げるためには、既存の韓国語の頻度に基づいた語彙目録に加え、日本語の高頻度単語を抽出し、それに対応する韓国語の単語を選定する必要がある。日本語の高頻度単語を調べるためにはすでに公開されている日本語コーパス調査の結果を反映した語彙目録を利用するが、それぞれの日本語単語に対応する韓国語の単語を定めることは容易ではないこと

が予想される。多義や文脈意味などによる対応のずれがあるからである。このような問題をまとめ、実際の対応作業を行っていくことで方法論の確立を図る。

(2) 語彙の内的特性の動的記述モデルを提案する。

韓国語語彙学習の対象となる語彙の内的特性は音声、綴りから形態、統語、意味、語用に至るまで多岐であり、単語ごとの様相も様々である。こうした語彙の内的特性を分かりやすく、正確に提示するためには個別の特性についての情報を構造化する必要がある。そして理論的な整合性とらわれ学習の効率性を損なうことなく語彙の内的特性を記述するように注意すべきである。本研究では、(1)の目録の単語を分析し、記述する中で構造化と効率性の両方の基準を満たす記述モデルの提案を目指す。そして教育現場の様々なニーズに対応できるようにするため、目録の電子化を行い、検索と内容の追加や修正が可能な動的な目録づくりのモデルとして提案する。

(3) 語彙の内的特性を反映した語彙目録のレベル分けの方法論を探り出す。

既存の韓国語学習用語彙目録における語彙の外的特性(頻度や使用範囲など)に基づいた学習レベル分けに加え、語彙の内的特性が反映されたレベル分けが必要であるとしても単語の内的特性は多岐多様であるため、その学習レベルを決めるためには明確な基準を立てなければならない。そのため、本研究では選定された単語について発音、形態(活用、造語)、コロケーション、意味関係、文法的特性、文体、語用などの情報を記述し、その結果にもとづいて語彙のレベル分けの方法論を試みる。一方、この語彙記述においては、日韓対照研究の成果を積極的に取り入れる。語彙学習において、単語の難易度の判定には学習目的や能力など学習者の条件が反映される

べきであり、その中でも学習者の母語(日本語)と学習言語(韓国語)との対応関係が重要であると考えられるためである。

3. 研究の方法

(1) 韓国語の語彙目録の分析・対訳付け

既存の語彙目録を対象に、これまで行った音声、活用、語形成の特性の分析に加え、語の出自、コロケーション、文法的特性、語用的特徴を分析する。(約 12,000 語)

(2) 見出しの確定

日本語の使用頻度調査の結果と(1)の日本語対訳の目録を対照する。日本語で高頻度語でありながら対訳として(1)の目録に入っていない語を追加し、その韓国語の対応語を付けて韓国語教育用の語彙目録を確定する。

(3) 語彙内的特性の記述

追加語彙について(1)の作業をする。

(4) 目録の DB 化を行う。

この作業については、IT の専門的知識が必要とされるため、専門家に依頼する。結果物を WEB 上に公開する。

4. 研究成果

本研究の成果として、韓国語教育用語彙目録の見出し選定の基準を明示したうえで、日本語を母語とする学習者のニーズに特化した語彙選定の方法を提案した点 韓国語学習者だけでなく、教材や評価の作成に役に立つ詳細かつ直接的な語彙情報の提供が可能な語彙目録のひな形を提示した点 上記の内容を実現した語彙検索システムの開発などがあげられる。その詳細を以下に述べる。

(1) 見出しの選定

日本語母語話者の韓国語理解と表現の両目的に活用できる語彙目録を作るため、本研究では既存の韓国語教育用語彙目録を活用することとした。まず、「国際通用」(見出し 11,118 語)を基準目録と定めた。この目録は 1,500 万語のコーパスから高頻度語を抽出した 15,000 語のうち、評価試験や教材の頻度、専門家集団によって教育用単語として適す

ると判断された 11,118 語の見出しと品詞・意味情報で構成されている。この見出し 11,118 語に対し日本語訳・対応表現を付した。韓国語単語 1 つに対し複数の対応語・表現が存在するが、対照のため 1 つの語義に対し 1 つの見出しを対応させた。そのため対応訳付け目録の見出しは 21,700 語となった。一方、日本語の基本語彙を得るために、日本で発表された日本語の教育用語彙目録 3 種を対象にその重複度を調査した。その結果、3 種の語彙目録すべてに載せられている単語は 7,199 語、2 種の目録に載せられているのは 9,999 語、1 種の目録にのみ載せられているのは 45,989 語だった。この日本語語彙目録と対訳付け韓国語語彙目録の日本語を対照した結果、一致する語は対訳付け韓国語語彙目録の 21,700 語の中 15,293 語であり、日本語語彙目録の 3 種の語彙目録すべてに載せられている単語 7,199 語の中一致した語は 4,104 語だった。この結果に基づき、韓国語には対応語が存在しない文化事象の単語や日本語と韓国語の対応表現が 1:1 でないケースを追加するなど整理・補完を加え、15,175 語の韓国語教育用語彙を選定した。

(2) 語彙情報の記述

本研究で提案する韓国語教育用語彙目録で提供する語彙情報は、品詞情報、語幹の音構造情報(音節数、各音節を構成する子音と母音、語幹末子音、語幹末母音)、発音規則、用言の活用情報、派生接辞の結合情報、出自(固有語、漢字語、外来語、混種語)、レベル情報である。品詞情報やレベル情報は基準目録である「国際通用」の情報を流用するが、日本語との対応関係で新しく掲載された見出しの場合、日本語語彙目録の重複度を参考にレベルを付与することにした。そのほかの情報については、韓国の国語院で刊行された『(標準国語大辞典)』を基準に判断した。

本研究では、提供する検索システムに取り

込んだ上記の情報以外に、類義語・対立語・上下位語・単語族情報などの意味情報や文型・コロケーションなどの結合情報についても分析を試みたが、予想より時間がかかってしまい、提供までは至らなかった。今後の課題としたい。

(3) 検索システムの開発

本研究では、電子版の語彙目録をもとに、教育用語彙検索システムを開発した。本システムでは、複数の語彙情報を組み合わせて必要な情報を検索する機能を備えている。これによって、教材やテストを作る際に、必要な教授項目に関連した複数の条件をすべて満たす単語の検索を容易に行うことができるようになる。本システムの特徴は以下の通り 2 点あげることができる。

両方向性

この両方向性には二重の意味が含まれている。第一に、韓国語からの検索を行えると同時に、日本語からの検索も可能である。読解の学習の際には前者の検索タイプが、作文の学習の際には後者の検索タイプが必要とされることが多い。学習の用途ごとに別の検索システムを用意するのではなく、一つの検索システムでどちらの検索にも対応できるようにした。第二に、見出しから語彙情報の検索だけでなく、語彙情報から見出しの検索も行える。従来の多くの検索システム(紙辞書、電子辞書、さらにはオンライン辞書も含む)では前者の検索のみが用意されている。しかしながら教育および研究目的では後者の検索が必要とされることが多く、本システムではこの需要に応える機能も実装している。

複合検索

以上の多様な語彙情報をすべて複合して検索することが可能な点にある。また、検索システムを多機能にすればするほどその使い方は分かりづらくなって見た目や使い勝手が悪くなる傾向にあるが、本システムでは

使用者からのフィードバックを受け、どの使用者にとっても使いやすく、かつ多様な検索も容易に行えるよう心がけている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3 件)

南潤珍

日本の韓

国語教育における文化教育の現状と展望), 国際韓国語教育, 査読有, Vol3-1, 2017, pp.147-176, 国際韓国語文化教育財団

南潤珍

(学習者ニ

ズに特化した韓国語教育用語彙リストの構築のための研究), 韓国学研究論文集, 査読有, Vol5, 2016, pp.1-15, 中国文化大学 華岡出版部(台湾)

南潤珍

社会的関係形成を

めざす韓国語教育に対する考察), 国際韓国語教育, 査読有, Vol2-1, 2016, pp.75-102, 国際韓国語文化教育財団

〔学会発表〕(計 3 件)

南潤珍・YI Yeong-il, 日本語話者のための韓国語教育用語彙目録の要件および開発の実際, 朝鮮語教育学会第78回例会, 2018

南潤珍,

(学習者ニ

ズに特化した韓国語教育用語彙リストの構築のための研究), 第5回西太平洋韓国語教育與韓国学国際学術会議(台湾), 2016

南潤珍,

(日本語話者のための韓国語教育用語彙リストの要件及び設計), The 26th International Conference on Korean Language Education (韓国), 2016

〔ホームページ等〕

検索システム

<https://nlp201.gitlab.io/sebkw>

6. 研究組織

(1)研究代表者

南潤珍 (NAM Yunjin)

東京外国語大学 大学院総合国際学研究院 准教授

研究者番号: 30316830

(2)研究分担者

()

研究者番号:

(3)連携研究者

()

研究者番号:

(4)研究協力者

YI Yeong-il (YI Yeong-il)

金惠珍 (KIM Hyejin)